

会長の時間 ●富田会長

11月はロータリー財団月間となっています。ロータリー財団は、RIの6代目会長アーチ・クランプが大戦下の1917年、国際ロータリー連合会(現RI)のアトランタ年次大会で、「ロータリーが基金を作り、全世界的な環境で慈善、教育、その他の社会奉仕の分野で何か良い事をしようではないか」と提案して発足したアーチ・クランプ基金(国際理解と親善のための基金)から始まりました。そして、1928年、ミネアポリス大会で、この基金は、5,739ドルを以て正式に「国際ロータリーのロータリー財団」となりました。

クランプは、財団を、「世界平和を推進すること」を目的に、幾世代にも亘ってロータリアンの奉仕活動を支える基金として認識していました。また、財団は寄付だけの事業は認めず、地域社会や国際奉仕のニーズに合致することを重視しました。これは、「お金」に「ロータリアンの献身」が掛け合わさって初めて「価値」が生まれるという考えからです。このことは、ロータリーの補助金申請に携わった方は良く理解して頂けるでしょう。これこそ財団が他の寄付団体と一線を画す特長です。

次にロータリー財団(TRF)について説明致します。

ロータリー財団は、「国際ロータリーの使命」に準じて「ロータリー会員が、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」を使命としています。また、財団の標語は近年になってクランプの「世界で良いことをしよう(DOING GOOD IN THE WORLD)」が採用されました。

ロータリー財団の構成員は国際ロータリーが唯一であり、RI会長がRI理事会の承認を得て、15名の管理委員を任命し、それにより構成される管理委員会によって全業務が処理されます。また、RIの事務総長がロータリー財団の事務総長となる為、実質、国際ロータリーとロータリー財団は一体です。

非営利財団法人であるロータリー財団の寄付の用途は、①ポリオプラス②グローバル補助金、③地区補助金④災害救済補助金⑤ロータリー平和センター⑥大規模プログラム補助金などがありますが、「資金の助けを必要とする地域社会や国際奉仕の博愛・慈善・人道的かつ教育的目的をもつ効果的なプロジェクト」や「持続可能な変化を齎す活動」に「補助金」を支給しています。

2005年から財団に「未来の夢計画」委員会が設置され、財団の最大のプログラムであるマッチング・グラントに持続性や大きな事業重視という観点が盛り込まれました。そして、補助金体制として6つの重点分野に、2019年から「環境」が加えられ7つとなりました。また、2015年に永久的なポリオ撲滅などを「財団の4つの優先目標」としました。

いずれにしてもロータリー財団は、「奉仕活動の充実」と「資金調達」が車の両輪であり、ロータリアンが、アーチ・クランプに始まる思いに賛同し、積極的に参加することによってしか成り立たないことを認識することが肝要です。去る10月22日は「しそう自立の家」で、共生社会の推進に向けサロンコンサートを開催致しましたが、あの時の価値ある活動も地区からの支援があってこそであり、ここに財団の存在意義を再認識するに至りました。